

平成 20 年度釜石市観光審議会 会議録

開催日時 平成 21 年 3 月 3 日（火）午後 3 時～午後 4 時

開催場所 釜石市役所第 2 会議室

出席者 ①委員：寺田守委員（会長）、平松正雄委員、
佐々木国男委員、杉本春夫委員、千葉まさ子委員、
西野重俊委員、新里進委員、平野智子委員、
和田竹美委員（9 名）

②オブザーバー：北川道隆氏（釜石地方振興局企画総務部 主任）
山崎恵介氏（釜石商工会議所振興課 主事補）

②事務局：野田武則釜石市長、上村俊一副市長、
金子健一観光交流課長、村上純幸課長補佐、
岩崎隆係長

会議経過

①開 会

定刻どおり事務局より開会を宣言。出席委員は 9 名で、釜石市観光審議会条例第 6 条第 2 項の規定により会議は成立している旨を報告。

②市長挨拶

③審議事項

○会長、副会長の互選について

釜石市観光審議会条例第 5 条第 1 項の規定により、会長に寺田守氏、副会長に平松正雄氏が選任され、寺田会長から挨拶があった。

釜石市観光審議会条例第 5 条第 2 項の規定に基づき、会長が議長の任にあたる旨を告げ、議事の進行に移った。

○釜石市観光振興簿ジョンの進捗状況について

○平成 21 年度観光施策について

事務局（金子課長）が、平成 20 年度事業の進捗状況及び平成 21 年度観光施策についてを実績報告書および資料に基づいて説明した。

～質疑応答～

（佐々木委員）

新魚市場は、単に魚を水揚げするだけの市場なのか、それとも観光客も楽しめる場所になるのか。団体に昼食が食べれる食堂の計画があるのか。他地域に対抗するためには海を活かす必要があると思う。

（上村副市長）

新魚市場については、昨年までの計画イメージを関係者と協議しながら軌道修正した。これまでの考えは、新浜町へ全て移転するということがあったが、定置網や小魚など鮮度を大事にする魚は魚河岸地区に揚げて、市民や観光客に見せながら、その場で販売したり、食べたり、観光船の乗り場も設置しながら、賑わいの核とした魚市場をつくらうとしている。

また、大漁に魚が揚がってくるまき網船やトロールなどについては、新浜町で迅速に処理し、併せて周りに加工場ができればと思っている。来年度からは具体化に向けて進めていきたい。水揚げする漁業者、買う人、出荷する人、そういう方々の意見を聞いて、できるだけ身の丈にあったコンパクトで釜石ならではの特徴を生かしたものにしたいと考えている。併せて賑わいの関係で、観光業者や市民の方の意見を聞きながら、そこに住んでいる方々にビジネスチャンスを与えたいという考えで、現在、研究会やワークショップを開催している。

これらが完成すれば観光面や漁業面で有意義な体制ができると考えている。

(西野委員)

個人的にラーメンが好きで、釜石のラーメン店は十数件行っている。有名なところでは、他の地域では、横手の焼きそばや八戸ラーメンがあるが、これらは地域全体でPRを図っている。

釜石ラーメンについては、それぞれの店のレシピまで同じにする必要はないと思うが、加盟店やマップを作って周知する必要があるのではないか。

観光船はまゆりに2度乗船させていただいた。その中で、曳き船まつりは勇壮なお祭りであるが、人が大勢いて見づらい。栈敷席を設けるなど観光客に対する工夫も必要ではないか。

(金子課長)

横手の焼きそばはB級グルメで全国的に有名。全て組合等の民間団体として登録出展しており、各店が協力しあって今でも拡大している状況。釜石ラーメンもそれなりに評価されているが、横手や八戸のように全体で売り込もうとするとところまでには至っていない。しかし、釜石の食を売り込みするには「釜石ラーメン」は魅力的な素材であると理解している。

曳き船まつりの栈敷席についてであるが、現在の市場では施設も老朽化しており、新市場になれば状況も変わってくると思う。釜石まつりのメインは曳き船まつりであると思うので、できるだけ多くの方々が見れるよう方法を考えていきたい。

(佐々木委員)

釜石のラーメンはファンが多い。商工会議所でも釜石ブランドとして検討しているが、どうしてうまくいかないのか？

(金子課長)

そういう意見は、商工会議所や観光物産協会などでも出されているが、ラーメン店全部が賛成しているということまでは承知していない。味覚まつりなどで、ラーメンまつりを開催しているが、やはり、店を営業しながらイベントへ参加することは難しいとする店もある。やる気のあるの方々が出てくれば積極的に支援して参りたい。

(上村副市長)

最近、様々な企業・団体がイベントに参加している。生産者の方々も街に出てくるチャンスであるし、それぞれがPRする良い機会になっている。これからは行政としてもどのように支援できるか考えていく必要があると思っている。

(平野委員)

栈敷席にしても新しい市場にしてもそうであるが、あまり作り過ぎないでほしいと思う。栈敷席が出来ればおそらく有料になると思うが、そうすると地元の人が栈敷席を利用するとは考えにくいし、そうなれば地元の人が見れなくなるのがすごく寂しい。地元で根付いているお祭りであるということを見ると、あまり大きく踏み出さない(観光地化しない)ところで折り合いがついてほしいと思う。

(金子課長)

そのとおりだと思う。人数が多ければいいとは思っていない。

(佐々木委員)

栈敷席を作っても、見れるのはせいぜい3列目ぐらいだと思うしあまり効果がないのではないか。

(西野委員)

地元の人との住み分けは必要である。例えば盛岡さんさ踊りの見学ツアーもあるので、そういう団体のお客様の席は用意して、地元の方の席も用意するなどやり方はあると思う。確かに地元の祭りであると思うが、観光資源でもあると思う。折角、お祭りを見に来たお客様が立ち見とならないような工夫は必要かなと思っている。

(上村副市長)

栈敷席を作るにしても色々な制約が出てくると思う。やはり、これからの時代は、市民の大きな声が動かすと思う。ですから、我々一部の者がそういうことを言っても通らないので、地域の方が訴えていけばそれに勝る力はないと思う。

(和田委員)

私は、一般公募でこの委員会に参画しており、観光に関わってこなかった人間だったが、今これを見て釜石はこういうところだったんだと思った。陸前高田市の出身だが、陸前高田市は高田松原がある関係で、釜石よりも観光客が多い。地元の人に陸前高田市の観光地は？と聞くと「高田松原」と誰に聞いても同じことを言う。釜石もこんなに沢山やっているのに市民の意識として「釜石は何があるの？」と聞かれると、「観音様？」「市場？」で止まっている意識がまだあると思う。こういう良いことを多くやっていて、市民の意識が薄いと思うし、逆にこれだけ沢山あると絞りきれないでいるのかもしれない。どれだけの市民がこれらを紹介できるのかなと思った時に、誰もがこれだと言える大きなことを重点的にやっていく必要があるのかなと感じた。もう少し市民への働きかけが必要であると思っている。

(金子課長)

釜石は、海あり山あり川ありで資源があり過ぎるのかもしれない。今後は一つの核となる、ここに行くのと全てが分かるといったものを作りたいと思っている。

(千葉委員)

ワカメワークショップ事業であるが、資料には平成21年度までと記載しているが来年度で終了するのか？この事業は非常に喜ばれており、湾内を活用した素晴らしい事業である。むしろ今後大きくなっていくのかなと思っていたが。

(村上補佐)

事業期間については、平成19年度から平成21年度の間民泊を本格的に実施しようとするもので、これが、定着したので今後とも継続という意味で記載している。

(上村副市長)

釜石湾では漁業も行っているが、一方で大きな港でもある。トヨタの車も出しており、貨物船も出している。そういうことを調整しているところで、勝手に何でも使っていいという話ではない。その中で観光や水産業は大事なことだと思っているし、特に泉浜は誰もが大事であると認識している。ワカメワークショップも好評なので潰してはならないと思っている。

④閉 会

事務局より閉会を宣言する。

以上